

3・11郡山現地へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年2月2日
No.261

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

6・15国会闘争へ大組織戦を!

1・31全学連拡大中央委員会うち抜く!

◆斎藤委員長のまとめの提起

本日は『中央委員会議案』に踏まえて、6月15日に呼びかける安保・戦争・改憲国会粉碎闘争に向かって組織戦を徹底的にやり抜き、2015年の激動情勢をつくり出すんだという点で大きく一致がかけられました。

本日の討論で重要だったのは、その政治的高揚をつくり出すために、全学連の活動家一人ひとりが「指導者・組織者」に飛躍する決意を語り、「どのような課題が自分たちにあるのか」を自分の言葉で語っていたことです。

その観点から私が訴えたいことがあります。昨年9月の全学連大会で、私たちは「武田君・赤嶺君のように闘おう」「『決定的な一人』を生み出して勝利しよう」と誓い合いました。先ほど、その沖縄大学学生自治会委員長の赤嶺知晃君が重要なことを発言しました。「自分は3・11福島や全国大学の闘いに参加する中で学んで、『沖縄大の一学生』と



して以上に、『階級の指導部』として沖大自治会を建設したんだ」と。「決定的な一人」がどのようにして生まれるのか、これを赤嶺君の経験が非常によく示しています。

本日の議案で提起した「全学連の課題」の内容も、このような闘いを絶対にやり抜くんだという決意です。全国学生がそういう立場に立つ。“法大のことは法大で”とかそういう問題ではなく、階級闘争の問題として、全世界の戦争情勢として、「自分たちの日常」「自分たちの現場」で「自分たちの人生」をかけて闘い抜く。そういう主体に飛躍しよう。

それをやり抜く過程と立場が、人を組織する。それを5～6月の戦争国会に向けてつくり上げる、それができれば、

再稼働、戦争、首切り もうたくさんだ 怒りを力にたちあがろう つながろう

3.11反原発福島行動'15

〈日時〉 3月11日(水) 13時～ ※12時からイベント

〈場所〉 郡山市民文化センター・大ホール(集会後、デモ行進)

〈呼びかけ〉 3・11反原発福島行動実行委員会

〈メール〉 3.11fukushimaaction@gmail.com



昨年末の衆院選で鈴木たつおさんが16981票というかたちで示したように、今年必ず私たちが主流派になり、安倍政権を打倒し、帝国主義打倒の世界革命を切り開いていくことができる。そういう闘いは絶対にできる。

私たちは今、自分たちのこれまでの闘いを、多くの失敗や敗北もありましたが、自分自身がどう闘ってきたのかをきちんと総括することが求められています。例えば私は2007年に法大に入学し、自由にピラが貼ってある法大キャンパスの空間が好きだった。そういう学生文化を守りたいと思って立ち上がり、退学処分もくらったけど闘ってきた。しかし、当局や権力が弾圧をしかけ、今や「学生文化」は事実上つぶされたと言わざるをえない状況にあります。だけど私は、法大闘争に立ち上がって良かったと思います。たしかに法大文化は敵の凶暴な弾圧で打撃を受けましたが、法大文化は京都大・広島大・沖縄大など全国に広がっています。

本当の意味で私が守りたかったものを、今は全国で全学連の学友たちが守り、かちとっています。だから私はこの闘いに絶対かけたいし、キャンパスで、日常の一つひとつの闘いでどんな「敗北」があっても、私たちは絶対に勝つことができると思っています。

私たちはいつも、「資本家の物質力」であきらめさせられてきた。ノンセクト・グループはそれをいいことに、「やっぱり人間は闘えない」と言って、簡単に田中優子や「オール沖縄」の権威にすぎたり、そうやって人間を貶めている。私たちはそれに対し、根底的な反乱を叩きつけるために仲間を組織し、すべての仲間に「闘う道にこそ生き方があるんじゃないか」「自分は何に喜び何に空気が入って何のために生きようと思っているのか」「君の大切なものは何なのか」、これを訴えることが、革命運動で本当に重要なことです。

「マルクス主義」というのは、この世界にいくらでも氾濫しています。日本共産党スターリン主義だって「マルクス主義者」を名乗るんです。しかし、私たちは何で「労働者階級の解放は労働者自身の事業である」ということをマルクス主義の核心に据えているのか？ それは、私たち自身がそう闘ってきて、その思いを大事にしてきたから初めてたどり着け

るものでもあるわけです。動労千葉が必死に闘いを組織してたどり着いた地平が、私たちのマルクス主義の核心です。

マルクス主義という思想は、全世界の人たちが闘って闘って200年かけてかちとったものです。いま共産党が「マルクス主義」を騙って何と言っているか？「マルクス主義は『資本主義が生成・発展・没落すること』を示した理論だ」と。すなわち、「資本主義は発生からまだ200年しか経っていない。まだ『発展期』であり『没落期』じゃないんだ」と。何を根拠に言っているか分かりませんが、「だから闘わない、闘う労働者民衆を圧殺する」と宣言しているわけです。これが世界中のスターリン主義の「マルクス主義」観です。

だから、私たちは真のマルクス主義を語り、実践し、自分たち自身の思いで現実にしていく。本日の議案の「情勢」の章の最後で、私は「可能性は可能性にすぎない、それを現実にするのは人間の決意と行動だ。多くの学生・労働者が貧困と孤立化にあえぎ、授業・テストや労働に忙しく、弾圧が激しい中で立ち上がるのはそれ自身めっちゃくちゃ厳しい。だからこそ、一人の決断・決起が万の心を揺さぶり、情勢を動かす時代だ」と言いました。労働者が社会を動かしている、これは当たり前の話で、その意味で「革命の可能性」です。だけど、それを現実させないためにブルジョアジーは徹底的に攻撃します。だから私たちはそれに対し、自分の人生をもって可能性を現実にします。全学連運動が自らを革命的だと位置づけ、ブルジョアジーの団結破壊と分断に対し、団結で反撃していく。作部君が弾圧されたら助け出す。星野文昭さんを奪還する。こういう運動をつくられているのは、運動を積み重ね、一個一個総括してきたからです。

4・28沖縄デー闘争→6・15国会包囲闘争に向かって問われていることは、私たち一人ひとりが活動家・組織者となるために、「自分が何を大事だと思ひ、何のために立ち上がり、何と対決したかったのか」を何度でもはっきりさせ、時代認識と路線を自分自身の経験からはっきりさせることです。

大組織戦をやり抜き、3・11郡山大結集、4月新歓決戦、4・28沖縄デー闘争、5月沖縄現地闘争、6・15闘争を闘い、今年こそ10・21国際反戦デー闘争を真の意味で復権させよう！

【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第8回公判

2月23日(月) 10時～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、9時半までに裁判所入口脇に集合してください。

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第9回公判＝判決

3月18日(水) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

●武田雄飛丸君「無期停学処分」撤回裁判・第9回弁論

3月13日(金) 11時～ 東京地裁615号法廷にて ※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

●“市東さんの農地死守!” 3・29三里塚全国総決起集会

3月29日(日) 正午～ 成田市栗山公園(旧市営グラウンド)にて